



天文資料

2019年 9月号

令和元年度 第6号 (9月号)

令和元年 8月28日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<秋の夜空を楽しんでください(虫の音も)>

佐世保市の真夏日の日数が8月22日までで通算30日となりました。別に猛暑日も4日ありますので、今年の夏も暑かったということです。しかし、8月後半はカラッとした暑さではなく梅雨末期を思わせる天気が続いたので被害の方が心配でした。

そのような中で、9月を迎えました。夜空を見上げると、天頂に「夏の三角形」が見えています。夏の三角形は、夏の星座の最後から昇ってくるので、11月くらいまで見ることができます。

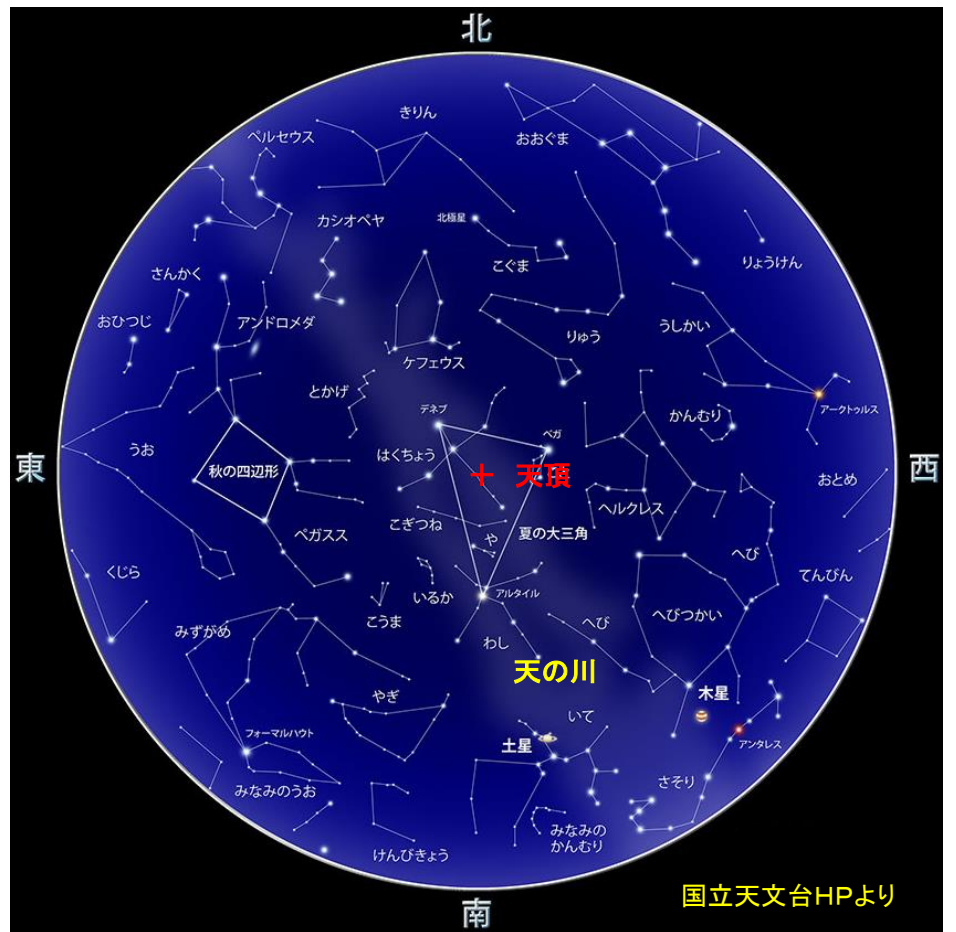
南の方に目を向けると、さそり座のアンタレスの近くにまだ木星が見えています。アンタレスの赤と、木星の金色が近くに見えますのでとてもきれいです。木星の見頃は9月までです。

左隣(東側)にはいて座があり、そこには白く輝く土星があります。こちらはまだ10月まで見頃が続きますので、ぜひ観望を楽しんでください。

9月13日は「中秋の名月」です。翌日が満月です

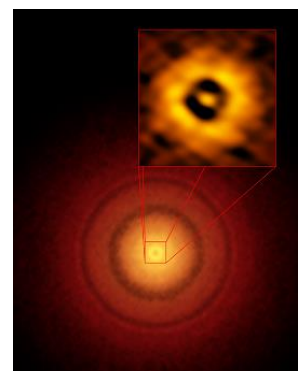
ので完全に真ん丸ではありませんが、涼しい風が吹き始めた秋の夜で、その姿を楽しんでください。ススキとお団子、スズムシやコオロギなどの鳴き声があれば言うことなしですね。

南から東の空を見渡すと、秋の星座が続々と昇ってきています。大型の星座が多いのですが、明るい星が少ないのでその形を見つけるのは大変です。星図を手に入れて、実際の夜空で星とにらめっこしながら探してみるのも楽しいですよ。



<惑星誕生の現場を直接撮影>

近年、多くの恒星に多様な惑星系や原始太陽系円盤が発見されています。うみへび座TW星は、多重のリング構造を持つ原始太陽系円盤を持つことで知られています。国立天文台の研究者などからなる研究チームは、アルマ望遠鏡を用いてこの星を詳しく観測し、円盤の様子をより鮮明に描くことに成功しました。その結果、円盤内に海王星サイズの惑星か、今後惑星になる可能性がある塵とみられる構造を発見しています。惑星誕生前後の重要な場面を直接撮影できたことは、今後の研究の進展につながる大きな成果です。



画像:ALMA